

# Library Mate



## データの入力開始にあたって

図書館長 三隅 治雄

大学・短大合わせて40万冊近くの蔵書を収納するわが大学図書館です。貴重な資料が数多く、研究者間の高い評価をえております。それだけに、学内はもちろん学外の各方面に情報を提供して、わが国の学術研究の振興に貢献したいと念じてまいりました。さいわい、1986年、大学共同利用機関として設置された学術情報センターが、コンピューターによるデーター通信網結合によって、大学図書館等の学術図書・雑誌等の目録・所在情報の形成とそれの提供を行う事業を始めました。そして各大学図書館が、ここでつくられた全国的な総合目録を形成するシステムに参加することによって、一館の情報がかたに諸館全体のものとなり、また諸館の情報が一館のものとなる。同時に、相互の目録作業の重複を防ぎ、その作業の省力化と処理のスピードアップがはかれるようになりました。そこでわが大学でも、このネットワークに参加するべく、92年以来、館内のネットワークの敷設、

ISDN の設置、図書館業務用ソフトウェアの導入などを次々に行い、今年6月27日に念願の学術情報センターとのオンライン接続を果たして、その目録システムに本学図書館の書誌データの登録を行いました。もっとも、全国的に見てすでにこのネットワークへの参加校は、大学が515校、短大が592校で、いささか出遅れの感がありますが、職員はそのハンディを克服すべく入力作業の迅速化に日夜努めております。この10月12日には短大図書館にもセンターとのオンライン接続が成り、目録システムへの入力を開始しました。これをわが館機械化の第一歩と喜んでいるのですが、ただ今後、蔵書のすべてを遡及入力してデーターベース化し、貸出管理の機械化と、利用者個々が端末で資料を検索し、カードひとつで気軽に借り出せるシステムを完成させるまでには相当の時間と経費を必要とし、いかに効果的に機械化をすすめるか、皆さんの御協力を願っております。

## 図書館業務機械化計画の概要

今回の館報は“図書館の機械化（電算化）”“図書館業務の機械化（電算化）”（以後機械化）というテーマで特集を組みました。

利用者のみなさんは、まだお気づきになっていないかもしれませんが、大学図書館では、本年の6月27日より、短期大学図書館では10月12日より一部の業務を機械化しました。

図書館が、どのような目的、構想、計画をもって、図書館業務の機械化を行なおうとしているか？ システムは？ ソフトウェアは？ そして、これをお読みになる利用者のみなさんが、一番関心・興味をもっておられる機械化によってもたらされるメリットなど、この場を借りて図書館事務部からお知らせいたします。

### I 全体計画と第1次図書館業務機械化年次計画スケジュール（案）

#### 実践女子大学・短期大学図書館学術情報システム計画

—大学図書館・短大図書館ネットワーク—

#### 1 図書館業務機械化の目的

(1) 「実践女子大学・短期大学図書館学術情報システム」（仮称）は、実践女子大学図書館、実践女子短期大学図書館の所蔵する学術情報資源（学術資料、機器等）の共有化を図る。

特に、大学図書館と短期大学図書館が所有する学術情報を相互利用するためにネットワークを構築し、各種利用者サービスの充実を図り、参考調査機能（各種情報検索サービスを含む）を充実させる。

(2) 図書館資料・学術情報の組織的収集、保管、提供のために必要な事務処理の省力化、迅速化を実現する。

(3) 第一次文献（図書、雑誌論文）を本学図書館利用者に迅速に提供することを目的として、文部省学術情報センターを介し、全国の大学図書館や国の共同利用機関等とデータ作成並びに利用で相互協力を図る。

#### 2 基本構想

計画は5年を1サイクルとして、当初計画を一次及び二次の10ヶ年計画とする。

第一次で、機械設備の基盤整備、大学・短大図書館とのネットワーク構築、大学・短大図書館蔵書（合計31万冊）の目録データベース構築、蔵書検索システムの整備、貸出システムの整備を行なう。

第二次には、学術情報システムの整備と充実、学内特殊コレクション（山岸文庫など）の目録データベース構築、利用者サービスの充実などを旨とする。

これらの基盤整備及び利用者サービス拡充に伴う図書館事務の量・質の拡張に際しては、自動処理システムや業者委託を採用することによって、人員コスト増をできるだけ押さえる工夫をする。

利用者にとって、図書館の進歩が目に見え、徐々にではあるが【使いやすい】【わかりやすい】図書館システムの完成を目指す。

#### [1] 第一次5ヶ年計画（1994.6—1998.5）

- 新規購入図書目録データベース作成
- 大学・短大図書館の蔵書目録データベース構築開始（週及びデータ入力）
- 蔵書検索システムの機械化開始
- 貸出システムの機械化（自動貸出システムの導入）
- 大学・短大図書館のネットワーク構築
- 全国大学図書館のネットワークに接続
- 外部データベースの利用サービス開始

#### [2] 第二次5ヶ年計画（1994.4—2004.3）

- 学内特殊コレクションの目録データベース構築（下田歌子資料・山岸文庫・黒川文庫・向田文庫・オスカー・ワイルド資料など）
- 地域社会への公開（地域の教育・研究・文化の中心としての大学・短大図書館の機能充実）
- パソコン通信による図書館データベースの公開。（利用者が自宅に於いてパソコンで図書館のデータベースを検索できる）

※計画は、5年を1サイクルの10ヶ年計画とし、機械設備の整備と利用者サービスシステムの一部完成・充実などを目標にしています。

なお、1999年、第一次5ヶ年の最終年は、実践女子学園創立百周年にもあたり、その年までには、大学・短大図書館の全蔵書31万冊のデータベース化と貸出・検索システムの全機械化を行ないたいと考えています。

## Ⅱ システムとソフトウェア

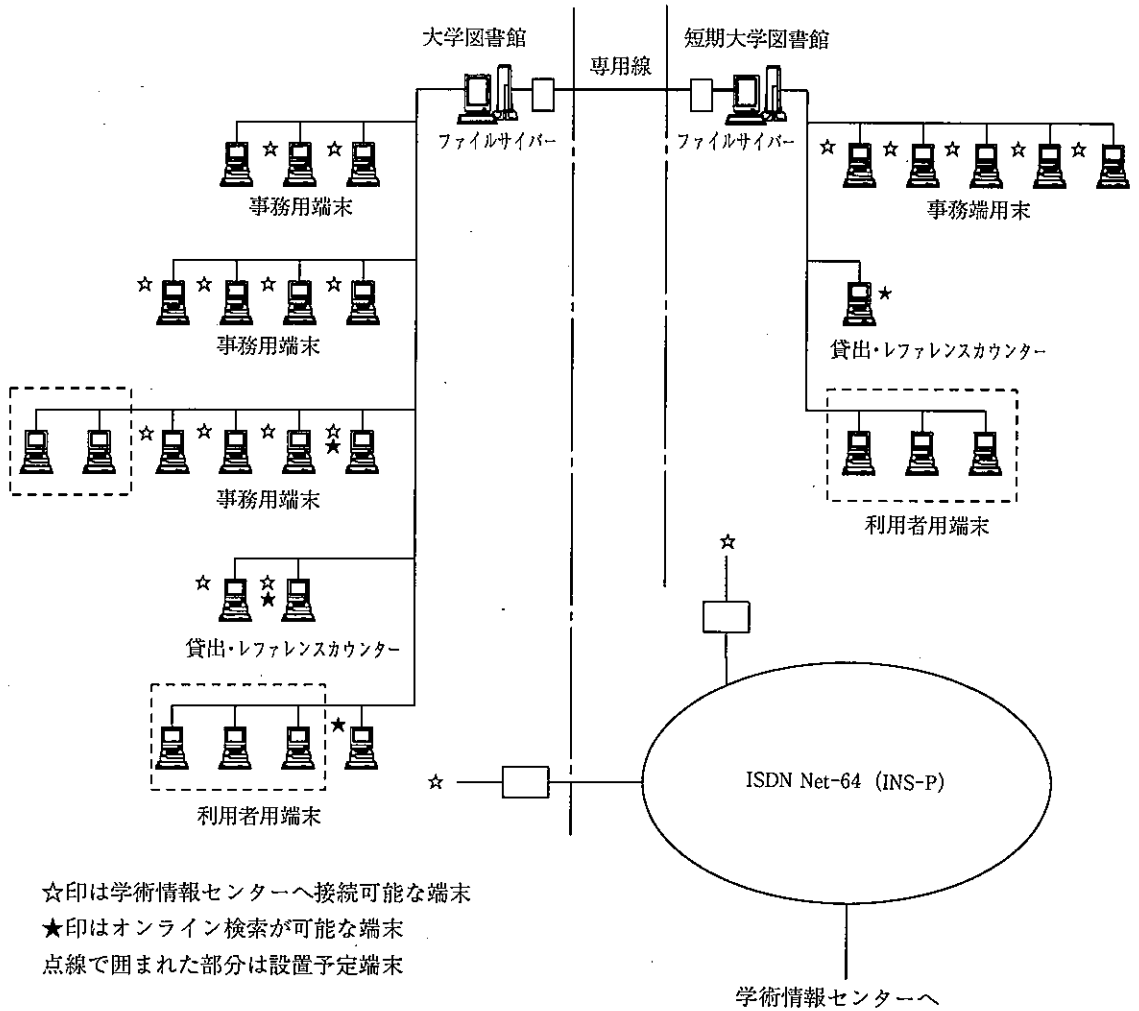
(1)の図はシステム概略図、(2)の表はソフトウェアと現在利用可能な外部データベースを示す。

特色は、①クライアント/サーバ方式のパソコンネットワークでの業務機械化ということである。②大学・短大図書館間をLAN間接続しているために、短大のデータを大学から検索可能となる（その逆も可）。③入力（時間）は集

### 第1次図書館事務機械化年次計画スケジュール(案)

	1994年 (平成6年)10月～	1995年 (平成7年)	1996年 (平成8年)	1997年 (平成9年)	1998年 (平成10年)	1999年 (平成11年)
業務機械化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規和洋図書の学術情報センター登録→情報館ダウンロード開始</li> <li>新規和洋図書のバーコード装備開始</li> <li>大学短大オンライン回線開設</li> <li>会計処理システム</li> </ul> 遡及バーコード装備 1994年6、10月 大学 以前に購入 短大 遡及データ入力 大学 短大	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動貸出システム導入(短大)</li> <li>蔵書点検システム導入</li> <li>向田、下田資料等データベース化開始</li> <li>学術情報センターILL(図書館間相互貸借)システム稼動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動貸出システム導入(大学)</li> <li>CD-ROM開発ソフト導入</li> <li>向田、下田資料等CD-ROM開発開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動貸出システム1台増設(大学)</li> <li>大学・短大間定期便(日2回)運行開始</li> <li>CD-ROM焼付器導入</li> </ul>		1999年以降(第2次計画) <ul style="list-style-type: none"> <li>CD-ROMサーバ導入</li> <li>学内資料のデータベース化</li> <li>山岸文庫、常磐松文庫、黒川文庫、近世芸芸資料、芝居番付、役者評判記</li> </ul>
利用者サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者端末導入(大学:3台、短大:3台)</li> <li>オンライン情報検索サービス開始(試験運用)               <ul style="list-style-type: none"> <li>Gサーチ</li> <li>日経テレコン</li> <li>国文学資料館</li> <li>NACSIS-IR</li> </ul> </li> </ul>	短期大学図書館貸出機械化開始(10月～) <ul style="list-style-type: none"> <li>CD-ROMサービス開始(大短共)</li> <li>オンライン情報検索サービス開始</li> <li>利用者端末導入(大学:5台、短大:3台)</li> <li>利用案内ソフト作製、稼動(大学・短大)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者端末導入(大学:2台)</li> </ul>	大学図書館貸出機械化開始 <ul style="list-style-type: none"> <li>大学短大定期便運行</li> </ul>		1999年以降(第2次計画) <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者端末導入(大学:10台、短大:2台)</li> <li>研究室、中高図書館とのネットワーク?</li> <li>地域への公開</li> <li>学生が自宅に於いてパソコンで図書館のデータベースを検索できる</li> <li>その他</li> </ul>

(1) システム概略図



システム構成

大学 ファイルサーバー SONY Quarter-L PCX-700DX7  
 クライアント NEC PC-H98mode190/U2  
 モデム OMRON MD96FS5V  
 TA ALEX-64/A, ALEX-64/D

短大 ファイルサーバー DECpcXL サーバー  
 クライアント PC-9821Xp/U8W  
 モデム OMRON MD144XT10V  
 TA ALEX-64/A

中して、入力のための（人力）は場所的には分散して、離れていても仕事は集中して行なえる。  
 ④ VDT (Visual Display Terminals 或いは Video Display Terminals の略) 障害の防止に役立つ。A という人が 1 日 10 時間をかけ 100 冊入力するより、A を含め 5 人が 100 冊を 2 時間かけて入力する方が、はるかに負担を軽減でき、

入力ミスが少なくなりデータの品質がよくなる。また必然的に入力数を増やすことができる。⑤分散処理の必要から、学術情報センターにアクセスできる端末台数が多い、将来的には館員数以上必要かと思われる。⑥従来型のホスト端末方式では、端末は一つの機能（データ入力）しか使えなかったが、実践（ネットワークコンビ

## (2) ソフトウェアと利用可能なデータベース

## A. 図書館で利用しているソフトウェア

	大学図書館	短期大学図書館
ネットワーク	Net Ware 3.11 J~	Net Ware 3.12 J~
OS	MS-DOS 5.0A	MS-DOS 5.0A-H
業務用ソフトウェア	情報館	情報館
学術情報センター接続用	NACPC	NACPC
日本語ワープロ	MS-WORD 5.0	MS-WORD 5.0
表計算ソフトウェア	MS-EXCEL 5.0	MS-EXCEL 5.0
データベース	MS-ACCESS 1.1	MS-ACCESS 1.1
通信用ソフトウェア	まいとーく	

## B. 導入予定 (利用者サービス用)

	大学図書館	短期大学図書館
CD-ROM	J-BISC	J-BISC
	雑誌記事索引	雑誌記事索引
図書館案内ソフトウェア	LEADS	LEADS

## C. 現在利用可能なオンライン検索システム (外部データベース)

大学図書館	提供
NACSIS-1R	学術情報センター
G-SEARCH	
国文学研究資料館	国文学研究資料館
日経テレコン	日本経済新聞
日経ニューステレコン	日本経済新聞

※外部データベースの利用については8ページに詳しく書いてあります。

ューティング)の場合、個々の端末(パソコン)に色々な機能(仕事をさせる)を持たせることが可能である。Aさんは日本語ワープロ、Bさんは表計算ソフトで計算をというように、要件により多機能に使い分けることができるのも特色の一つといえましょう。

## Ⅲ 図書館業務機械化によって、利用者にもたらされるメリット

○カード・冊子体目録中心の検索では、見落していた情報(資料)を網羅的に入手(検索)できる。(端末検索)

これはほんの一例ですが「漱石・芥川・太宰」という書名の本があります。1994年4月以前に手作業で整理されたものです。この図書をカード目録により検索してみましよう。「漱石」からは検索できましたが、「芥川」・「太宰」から検索できません。書名は最初のことが一致していなければ、検索できません。書名をうろ覚えの人は、この本を書名目録からは探し出せません。このような時にカード中心の手作業整理の限界が現われます。機械化されれば、端末で「漱石」・「太宰」・「芥川」のどの Keywordを入力しても検索できるようになります。

○外部の様々なデータ・情報を実践女子大学・短期大学図書館に居ながらにして見ることが出来る。将来的には、インターネットなどを利用し、海外で出版された文献・データなどを迅速に手に入れることも可能となります。(外部データベース)

今までは、大学・短期大学図書館に所蔵していない資料について探し出すには、時間と労力が非常にかかっていました。また、探し出せないケースも多かったのですが、外部データベースを導入したことにより、日本、あるいは世界各国で出版された資料も瞬時に検索することができるようになりました。

○図書の発注から利用者の手元に届くまでかかる時間が短くなる。(業務の省力化、装備委託)  
図書館が書店に注文を出してから、利用者に検索・貸出可能となるまでかかる時間が大幅に短縮される。

○文献複写依頼の所要時間が短縮される。現在、手作業で、文献のある他大学・研究所等を調べ、電話で所蔵確認をし、郵便で複写依頼を出す。その作業が機械上(パソコンと通信回線を利用して)処理できるようになり、時間も短縮される。(外部データベース、学術情報センターILL)

○最初は一部分であるが、大学・短大図書館双方のデータを検索することができる。(大・短ネットワーク)

○大学・短大図書館双方の発注中図書(書店に注文を出した図書)のデータも見ることができる。(端末検索)

○現在、大学(短大)で借りた資料は大学(短大)へ返却しなければならないが、返却のみどちらでも受けられる。(どこに資料を返却してもよい)

例、大学図書館がなく、またはあっても貸出中の資料が、もし短大図書館にあったらと、考える利用者の方が多いと思います。(当然逆のケースも考えられる)現在そのような申し出があった場合、相手方(ここでは短大)に電話をかけ、カード目録を検索・書架に本があるのを確認してもらい、利用者に短大図書館に所蔵していることを伝える。または、借りにいってもらう。このようなことが専用回線を敷設し、大学・短大図書館ネットワークを組むことにより、利用者自身が端末を操作し調べられるようになります。同時に予約もかけられるようになります。将来的には、図書館で1日2回ほど便を出し大学(短大)に居て、短大(大学)の資料を借りたり、コピーを取り寄せたりできるようにしたいと思います。業務機械化により、僅か500mではあるが(近くて遠い)大学・短大間の地理的不利をなくしたいと思います。

○資料を借りる手続が簡単になる。(貸出業務の機械化、自動貸出機導入)

資料を借りるのに、面倒な手続、名前、学科、学年などを記入していたが、貸出業務の機械化が実現すれば、利用者カードと資料バーコードをなぞるだけで、貸出手続ができるようになります。また、自分で貸出手続をとる自動貸出機

の導入も予定されていて、プライバシーが守られる。それに伴って、多くは人為的ミスが原因の「返却した」「返却していない」のトラブルも防ぐことができる。

○自分が必要としている資料が貸出中(修理中、製本中、不明等)かどうかすぐ解るようになる。(端末検索)

○蔵書点検(3月期)による閉館日数が減り、開館日数が増える。(図書館業務機械化)

○パソコン演習室、研究室等で24時間図書館全蔵書データベースを検索することも可能となる。

○利用者が自宅においてパソコンで図書館全蔵書データベースを検索することもできるようになる。(学内、外LAN)等。

#### 最後に

国際化・情報化という時代背景のもと、図書館サービスの需要は益々高まっていくのではないかと思います。いままでのように、資料を整理・保存するだけの利用者を待っている(Staticな)図書館(学校のシンボル)から、業務機械化によるサービスを前面に、行動する(Activeな)図書館に変えてゆかなくてはならないと館員一同思っています。

なお、図書館の機械化、図書館業務の機械化について、「こんなことはできないか」「こんなことをして欲しい」「こういう外部データベースにアクセスしたい」など色々な要望、意見もあると思います。そんな時はお気軽に、図書館に御越し願えばと思っています。

[使い易い] [親しみ易い] [役に立つ] 図書館を創り出すのは、館員のみならず利用者のみならずでもあるのです。”

## 情報検索サービスをはじめました!!

### I データベースについて

皆さんは、あるテーマについて文献を探したり、ある事柄についての記事を探すときどのようにしていますか？ほとんどの人は、図書館の書棚からテーマに関する文献目録や、何年分もの記事索引を持ってきてページをめくりながら調べていると思います。

これらの印刷された文献目録や記事索引もデータベースの一種ですが、最近よく耳にする「データベース」と呼ばれているものは、コンピュータ処理が可能な形で整理統合された「情報のファイル」または、その集合体のことを言います。

これらは、通信回線を使ってアクセスすることが可能で「オンライン・データベース」と呼ばれています。

このような、「オンライン・データベース」を利用することにより、短時間で多くの情報の中から適切な文献情報を、得ることができ、大きな効果をあげることが可能になります。

### II 大学図書館で利用できるデータベース

大学図書館では平成6年6月より、自館の所蔵目録データベースの蓄積作業に取りかかると同時に、外部機関の「オンライン・データベース」と接続し、検索サービスの試験運用を開始しています。近い将来、短期大学図書館でも導入が予定されています。

現在、大学図書館で利用できる外部機関の「データベース」には次のものがあります。

#### (1) NACSIS-IR (以後 IR)

文部省学術情報センターが提供する、データベース検索サービスです。人文・社会・自然科学の各分野にわたって、3000万件以上の学術情報を蓄積しています。

その主なものには、「雑誌記事索引データベース」「家政学文献データベース」「目録所在データベース」等があります。

#### (2) G-Search/グローバルサーチ (以後 G)

国内115余、海外850のデータベースを利用できる総合データベースサービスです。

提供する情報は「JOIS 科学技術情報」「新聞・ニュース記事情報」「企業情報」「人物情報」「図書・雑誌情報」などの幅広い分野をカバーしています。

INFOCUE を通して海外のデータベースを検索することもできます。

#### (3) 日経テレコン (以後 N)

日本経済新聞社が収集・提供しているデータベースです。経済・社会関係の情報に特色があり、「ニュース・新聞記事情報」「市況情報」「人事・企業情報」「暮らし・レジャー情報」等のデータベース検索ができます。

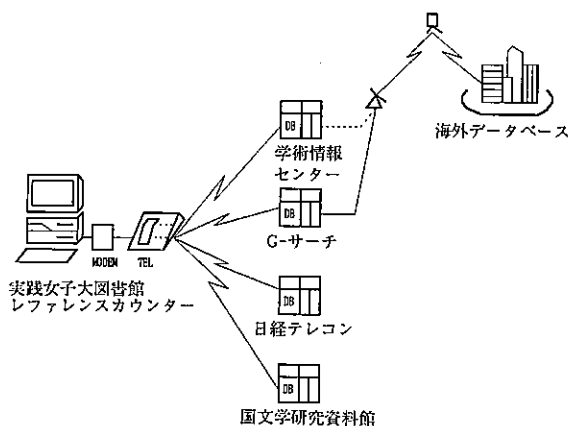
#### (4) 国文学研究資料館データベース (以後 K)

「マイクロ資料目録データベース」→全国の大学・図書館・文庫所蔵の写本・版本の目録書誌データを累積したものです。

「和古書目録データベース」→国文学研究資料館が所蔵する和古書目録をデータベース化したものです。

「国文学論文目録データベース (昭和54年～)」→雑誌・紀要および、単行本論文集に掲載された国文学関係の論文を、データベース化したものです。

※(1)、(2)、(4)は図書館員が代行検索します。(3)の日経テレコンは、申込者自身で検索できるようになっています。



## 利用申込方法

受付・時間	月～金 9:00-16:00 受付・調査 16:00- 受付のみ 土 9:00-16:00 受付のみ
申込方法	申込用紙に記入してレファレンスカウンターへ申し込んでください。 キーワードの選定や、求める情報の内容・条件を確認しながら検索を受付ます。
申込用紙	2種類用意しています。 ①「外部データベース検索申込用紙」②「日経テレコン利用申込用紙」
料 金	データベース検索には、接続料金、ヒット件数料金、接続時間料金、通信料金等が掛かります。 しかし、試験運用中という事もあり、当分の間、利用料金は図書館の方で負担しています。

## おもなデータベース一覧

雑誌記事索引データベース (IR)	日本の学術雑誌等に掲載された学術論文の索引情報 全分野	102万件	1984-
A & H Search (IR)	「Arts and Humanities Citation Index」誌に対応する海外の人文科学分野の索引・引用情報	127万件	1983-
Social SciSearch (IR)	「Social Science Citation Index」誌に対応する海外の社会科学分野の索引・引用情報	138万件	1983-
家政学文献索引データベース (IR)	日本家政学分野の学術文献の索引情報	2万件	1979-
SciSearchi (IR)	「Science Citation Index」誌に対応する海外の自然科学分野の索引・引用情報	490万件	1987-
Life Science Collection (IR)	生命科学分野に関する文献情報 (抄録付き)	125万件	1982-
経済学文献索引データベース (IR)	日本の経済学分野の学術文献の索引情報	10万件	1983-
科学技術文献情報 (G)	750万件を越える「JICST 科学技術文献ファイル」や国内外の医学文献ファイルなど、膨大な情報を簡単に検索できます。提供は(特)日本科学技術情報センター (JICST) です。	——	1975-
国文学論文目録データベース (K)	「国文学年鑑」に対応する文献目録情報	11万件	1979-
マイクロ資料目録データベース (K)	全国の図書館・文庫所蔵の写本・版本のマイクロ資料の情報	14万件	——
「WHO」人物・人材情報 (G)	新聞雑誌・図書に掲載された人物に関する情報。著者、論文、記事、インタビュー等	135万件	——
「BOOK」図書情報 (G)	国内出版物の要旨、出版社、発行年、価格等	26万件	1986-



日経テレコン利用申込用紙

申込年月日	1994年○月△日 ( ) 13:00	受付者	
所属	食物 学科	2 年	教員・職員・副手・助手
氏名	日野 ヌミ		
検索テーマ [何を検索しますか?]			
米の自由化問題についての新聞記事を調べたい。			

外部データベース検索申込用紙

利用データベース

\*太枠内を記入してください

新聞言	申込年月日	1994 年 10 月 ○ 日 ( )	14:00	受付 NO		
	申込者	所属	被服	学年	3 年	
		氏名	日野すみれ	受付者		
		住所	日野市大坂上 4-1-1	TEL:	受渡日	
	検索結果入手希望日: 10月末までに必要(*通常は2日~3日ぐらいかかります。)				受取者	
	検索希望データベース: JOIS, 雑誌記事索引データベース					
キーワード [検索	検 索 事 項					
米, 斬	I. 検索テーマ (なるべく具体的に書いてください)					
タイ米, カ	環境問題 と エコロジー について 書かれた 論文を 探したい。					
対象期間:	II. キーワード (検索に有効と思われる言葉・化学式・人名・団体名等)					
接続開始	大気汚染, 水質汚染, ゴミ, リサイクル					
接続終了	エコロジー					
[アンケート] ☆検索の結果得た	III. 参考資料 (検索に役立つ関連資料があれば、添付または、書名・著者名を教えてください。)					
☆情報検索を自分	IV. 検索限定事項 (下記に記入してください。)					
☆現在、外部デー イと思いますか? *思う	対象期間: 1993年1月~'94年6月 ・ '94年6月 ( 以前 ・ 以降 )					
	対象言語: 日本語・英語・独語・仏語・その他 [ ] ・ 限定せず					
	対象資料: 図書・雑誌・新聞・その他					
	雑誌名 [ ]					
	新聞名 [ ]					
	V. 出力形式: 部分出力 [ 見出しのみ・抄録 ]					
	全文出力 [ ただし、本学に現物を所蔵している場合は出力しません ]					

## 『家政学文献索引データベース』と家政学シソーラスについて

被服学科教授 城島栄一郎

実践の図書館の電算化が進められて大変うれしく思っています。今後さらに進展して研究・教育に大いに活用されることを望みます。

私は平成1年度より日本家政学会に設置されたデータベース特別委員会の委員として家政学関連の文献データベース作成に関係してきましたので、表記の内容と今後の課題について要約して紹介します。詳細は平成4年の『日本家政学会誌』4号から8号に連載された「家政学文献情報検索システムのサービス開始について」をご一読下さい。家政学会では独自の文献データベース、および、用語を統制して分類整理したシソーラスを作成し、学術情報センターを通してオンラインの文献検索を可能にしました。多くの労力と費用をかけて作成した理由は次のことからです。

①家政学関連の文献情報が著しく増大してきたことにもなって研究・教育の資料として必要な文献検索の労力を軽減する必要性が高まってきた。このためにはコンピュータを利用した文献検索システムを構築する必要がある。

②複合、境界領域の学問である家政学関連の文献を全分野カバーできる既存のデータベースはなく、家政学独自の文献データベースを作成する必要がある。1986年までの文献については、家政学文献集(1～4集)が出版されておりデータベース化が容易であった。

③家政学文献情報と年次大会研究発表のデータベース化を進め、学術情報センターを通して平成4年4月よりオンラインサービスが開始されると、キーワードによる検索の効率(検索もれや不必要な文献が検索されることをできるだけ少なくし、時間と経費を節約する)を上げるためにキーワードとなる用語の統一が必要となり、これを家政学シソーラスとして出版する必要があった。

〈平成6年6月現在の内容〉

●過去に出版された『家政学文献集』第2集から第4集(1986年まで30年間の約200誌6万件)のデータベース化と文部省学術情報センターでのオンラインサービスの開始(平成7年に第1集もデータベース化の予定)。ここでは国内の学術雑誌約200誌を対象として家政学関連の研究論文(題名・著者などの書誌情報のみ)が収録されています。また、平成4年度以降の家政学会年次大会の研究発表要旨データベースのオンラインサービスも開始されています。

●家政学シソーラスの編集と刊行(平成4年5月刊行)

3178語：家政学会事務局へ直接申し込むと郵送されます(1000円)。現在英語版を編集集中で平成6年度の刊行予定です。

●上記のように文献情報データベースとして過去の文献のデータベース化も重要ですが、最新の情報を常に追加していくことが最も重要です。従って、1987年以降の新規発生データの収集とデータベース化を進めており、1992年については家政学会会員の中からデータベース委員を選出して入力済みで、1993年も入力作業にとりかかっています。

最後にこのデータベースの利用方法ですが、まず、学術情報センターに申し込んで(家政学会員であれば簡単な手続きでだれでももらえる)パスワードを取得する。次に、学術情報センターに電話回線を通してコンピュータを接続し「KASEI」と入力してから情報検索を行うこととなりますが、そのためにはパソコン(通信機能のあるワープロ専用機でも可)とモデム、通信ソフトが必要です(図書館に設置されています)。

## 図書館の機械化と『西行関係研究文献目録』

国文学科助教授 西澤美仁

図書館が機械化に踏切ったという。詳細は知らないが、その限りでは時代の流れへの対応として評価すべきであろう。思えば十数年以前の私の就任当初の図書館は機械化とは無縁の、しかしその分“聖域”でもあった。カードは存在したが使用に耐えず、およそ図書の検索機能を持たないかわり、よく思いがけない本との出会いがあった。個人の書齋を少し拡張しただけのような、それだけ人間味のある図書“室”であり、先学から直接ものを教わっている感じがあった。

大学自体の規模が大きくなったから、どんなに懐しくっても昔にかえることはできない。時間とか時代とかの流れとはそういうものだ。

ところで、本稿の筆者が他ならぬ私であるのは、どうやら4年前に上梓した『西行関係研究文献目録』(1990、貴重本刊行会)と関係があるらしい。大いにPRして初版の500部をそろそろ完売し、増補改訂に着手したいところだが、実は今、私自身が機械化の陥し罠に嵌りかかっている。

機械化の是非自体は問うまでもない。1枚のカードは1通りの検索方法にしか対応できないが、データ・ベース化することで、対応はほとんど無限に近くなる。従って、情報の分類や検索の方法に本格も正統もなくなり、根本的な見直しも可能になる。極論すれば、図書館学のノウハウに対して革命の変容が期待できる。開架図書の配列方法から函架番号の振り方にしてもNDCや国会図書館方式から自由になれる。再び手作り図書室が帰ってくるかもしれないのである。

しかし、嵌りかかった陥し罠とは、機械化は決して毒ではないが、皿まで喰らい尽くさなくてはならない、ということである。理想論ではなく、全くの現実論として、無限の対応の可能性が開かれるところまで突き抜けなくては、却って不便、不利益が生じる、ということである。

私の例でいえば、文献目録は著者・編者別に書名・論文名を列挙し、巻末に簡単な索引を付している。タイトル名に現われる限りはキーワードが検索できるが、無限の対応とは程遠い。なまじいくつかの対応をはかったばかりに、機械的な管理的なおいだけが強くなって少しも便利ではない。

そこで、この目録から2つの展開方法を考えた。1つは注釈である。久保田淳編『西行全集』(1982、貴重本刊行会)犬井善寿編『西行和歌歌番号対照表』(1988、私家版)の活用で西行和歌のヨコのつながりは見通すことができていたが、昨年、福田秀一編『西行和歌引用評釈索引』(1993、武蔵野書院)が出るに及んで、タテのつながりが少し明るくなった。これを開いて、文献目録全体を和歌への言及を単位に分類してみたら、有能な注釈書に生まれ変わるだろう。1首ごとに従来の注釈書を整理し直したカード約1万枚(B5)と連動させるという組替えを考えている。

もう1つは伝承。佐佐木信綱他編『西行全集』(1941、文明社)の「西行関係文献抄」の充実と、民俗の中に生きている西行伝承の収集及び両者の関連を理解するために、この8月、本学園中学高等学校の花部英雄教諭らと組んで「西行伝承研究会」なる組織を結成した。「全国に分布する西行伝承を、書承・口承を問わず、実像・虚像を問わず、石碑から西行絵に至るあらゆる“西行”を、時代をも超えて集大成し、その本質を明らかにすること」を目的とした全国規模の研究会組織である。その収集をデータ・ベース化して、注釈データと同じ座標に乗せるのが、いま私の夢であり、文献目録の陥し罠からのほとんど唯一の脱出方法と目される。

なまじ作業の簡略化のために機械化に手を染めると、仕事量ばかりが膨大に増えてしまう、とは、一種のパラドクスであろう。図書館もこれから10年間は、膨大な作業量と莫大な費用と、それ以上に大きな不便感と矛盾感とに苦しむのであろう。着手した以上、脱出口はトンネルの向こうにしかない。個人レベルでは、それが人生というものさ、とたのしんでしまえばいいのだけれど、がんばってください。

ともあれ、文学研究にとって機械化とは、無限の可能性という名のテキストの解体に他ならない。骨を集めて人を造る。蘇生法を知り、創造者の手の内を探る。魔道に似て実はこれが王道、なのだから、そもそも文学研究自体、神ではなくて、鬼の所業に比すべきだったかもしれない。

❖❖❖いんふお-め-しょん❖❖❖

1994年12月～1995年3月

大学図書館

短期大学図書館

特別貸出

冬休み

期間：12/14(水)～12/26(月)

返却日：1/13(金)

冊数：図書 5冊

春休み

期間：2/1(水)～3/18(土)

返却日：4/17(金)※卒業予定者 3/17(金)

冊数：図書 5冊

冬休み中の開館

開館日 12/21(水)、22(木)、12/26(月)、  
1/6(金)、9(月)

時間 9:00～16:00

試験期の開館

1/11(水)～1/31(火)開館時間延長

月～金 9:00～18:45 (土) 9:00～16:00

試験期の貸出

1/6(金)～1/14(土) 1週間貸出

1/17(火)～1/31(火) 3日間貸出

試験終了後の開館

2月 2/3(金) 9:00～18:00

2/4(土) 9:00～16:00

※2/6(月)～11(土)入試のため閉館

2/13(月)～18(土) 9:00～16:00

※以後蔵書点検のため閉館

3月 3/13(月)～25(土) 9:00～16:00

※詳細や変更は掲示にてお知らせします。

編集後記

図書館の電算化がようやくスタートしました。今号で電算化の全容(計画案)をお知らせできることを、素直に喜びたいと思います。

図書館は変わります。否、変わらざるを得ないのだと言うべきでしょう。実を言えば、既に7、8年ほど以前より、わが図書館にコンピュータがなかったために提供できなかった情報が、多くあったのです。学術情報に自由にアクセス

特別貸出

冬休み

期間：12/14(水)～12/26(水)

返却日：1/13(金)

冊数：図書 5冊

※雑誌/カセットテープ/ビデオは20(火)～

冬休み中の開館

開館日 12/21(火)、22(水)、26(月)

時間 9:00～16:00

試験期の開館

1/11(水)～31(火) 開館時間延長

月～金 9:00～17:45 (土) 9:00～16:00

試験期の貸出

1/11(水)～31(火) 3日間貸出

2/1(水)、2(木)貸出分の返却日は2/3(金)

試験終了後の開館

2月 2/1(水)、2(木) 9:00～17:00

2/3(金) 9:00～16:15

2/4(土) 9:00～16:00

※以後、入試・蔵書点検のため閉館。

※閉館中の図書返却は、「返却ポスト」を御利用下さい。

※詳細や変更はその都度お知らせします。

できる環境を提供するのが図書館の役割です。コンピュータ・ネットワーク下では、情報が世界的拡がりと共に時性をもって交通することが可能となります。だが、利用者が端末機に向って何のKey Wordも持っていないと仮定すると…? “Wordを持つこと”こそ私たちのKeyとなるでしょう。

Library Mate 第13号 1994年12月

発行所 実践女子大学図書館

東京都日野市大坂上4-1-1

実践女子短期大学図書館

東京都日野市神明1-13-1

発行責任者 三隅治雄